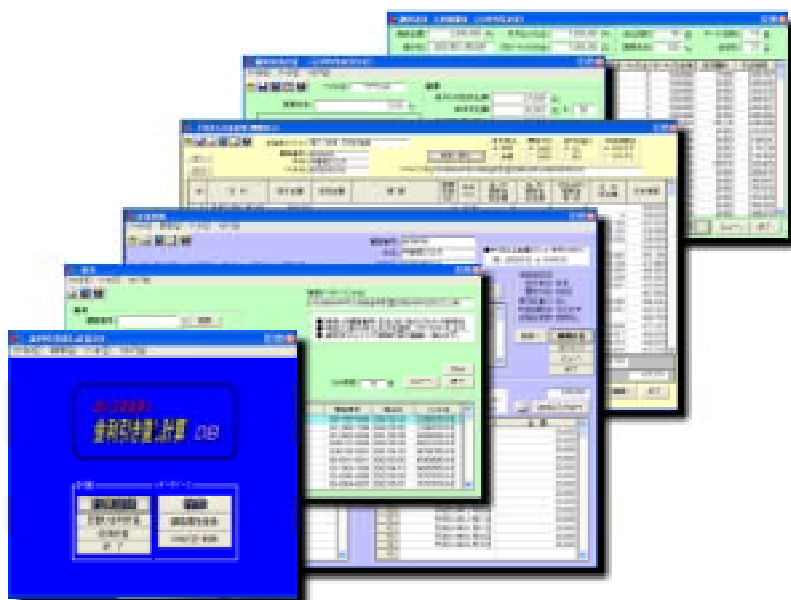


ローンマスター / 金利引き直し計算 DB

取扱説明書



2019/05
By Mr.Dragon

目 次

	頁
はじめに	3
特 長	3
データベースの構成	4
データベースの検索項目	5
データベースの操作要領	6
操作要領 検索	6
顧客属性登録と実績ファイル登録	6
D B 訂正・削除	7
データベースファイルの編集	8
ファイルの指定	8
データベースの書き換え	8
データベースの合併	8
データベースの分割	8
データベースへの追加	9
別の新しいデータベースの作成	9
操作要領	10
全体操作概略	10
一般的操作要領	11
初期設定	11
顧客属性登録	13
計算登録 基本項目入力	13
貸付（借入）入力	14
返済分	15
計算結果表示 計算内容	16
実績ファイルの変更	17
日割り計算	17
融資リクエスト試算／回数指定	18
借入可能金額（元利均等払）割出し	19
融資返済計算	21
計算方法の詳細	21
ファイルの読み込み・保存	25
付属ソフト MD 電卓	25
支払営業日割出し	26
インストール要領	27
インストールのエラー	28
サポート	29
注意事項	29
印刷見本	
検索	30
計算登録	31
計算結果（縦）	32
計算結果（横）	33
融資リクエスト試算／回数指定	34
融資借入可能金額割出し	35
融資返済計算の元利均等払の元利展開表	36

■ ■ はじめに

金融機関やクレジット会社あるいは消費者金融などで行っている融資（貸金）について、その債権者、債務者ともに必要に応じて、その支払いに關しての「見直し」をする場面が益々多くなっています。その「見直し」の主たるものが既支払部分に対する金利引き直し計算という作業ということになります。

金利引き直しとは、ローンの返済において、当初返済予定とは異なる形で、実際に返済された日付や金額に対し、金利率の変化や法定金利等を加味して再度元利展開計算を行うものです。実際の返済状況というのは、休日や遅延等でずれたり、金額の過不足が生じたり、当初返済予定表とは異なった展開になることがあります。また、途中で金利が変わったり、利息制限法などの法定金利に照らしての再計算や特に滞納の場合、期限の利益喪失等により、遅延損害金に切り替わる等の計算が必要となってきます。

これらの計算は非常に複雑かつ煩雑で、手計算としては熟練を要するものとなります。そこで、このような作業に簡単に対応できるものの必要性が出てきます。

また、多数の顧客を擁する場合は、その属性や支払状況の変化への対応や計算書類作成、期日管理などを行う仕組み、つまり検索・訂正・計算・印刷・出力などのデータベース管理が不可欠なものとなってきます。

「ローンマスター／金利引き直し計算DB」はそれらの必要性をひとつのソフトにまとめたものとして制作されました。

入力・計算・出力など、多様な機能や工夫で、より使いやすいものになりました。

金利計算に関する考え方もさまざまな解釈もあり、これら全てに対応はできませんが、多くのケースに対応できる形として当ソフトが作られています。

金融関連の強力なサポートアイテムとして、是非ご活用頂きたいようお願い申し上げます。

※このソフトはリースやショッピングクレジットなどの金利引き直し計算は対応していません。

■ ■ 特長

1. 日付は入力、表示共に西暦・元号両方にて簡単にできます。
2. 期間（金利計算）の表示も可能。
3. 順序不同の入力で対応できます。
4. 閏年での自動判定計算可能。
5. 期限の利益喪失の設定および金利変更設定が可能。
6. 利息制限法に対応可能。
7. 期間表示が可能。
8. 保存・読込ができ、データの加工も可能。
9. 入力データ印刷および、計算結果の印刷が縦横に可能。
10. 初期設定により、各設定が自動設定されます。
11. 1区間のみの日数計算を伴った金利計算も可能。
12. 融資リクエスト試算及び借入可能金額割出し機能
13. 実用的な融資返済計算（元利均等払・元金均等払）機能
14. 電卓・日数計算ソフト付き。
15. 属性のデータベースにより、検索して特定表示ができます。

■ データベースの構成

データベースは2通りのファイルから成り立ちます。

1. 属性ファイル (データベースインデックス=検索用ファイルとなります。)

ランダムアクセスにより、ここから顧客番号や氏名(姓)などで検索します。

内容は、1.顧客番号 2.氏名 3.フリガナ 4.住所 5.電話番号 6.日付 7.ファイル名 等の項目になっています。このデータベースファイルは、追加統合や分割、書換えなどができます。検索で読み込むファイル名は、CCC.LMK です。(他のファイル名では検索できません)

● レコード と フィールド

レコードとは属性ファイルの一人分の情報=横の 行 になります。

一行中には、1.顧客番号 2.氏名 3.フリガナ 4.住所 5.電話番号 6.日付 7.ファイル名などの情報が入ります。

これに対してフィールドは上記の顧客番号・氏名などの項目で、縦の列 です。

レコード番号とは、このレコードの位置になります。

例えば、レコード番号 5 は、5行目の一人分の情報群となります。

当然ソートなどでその位置が変わればレコード番号も同じく変わります。

2. 実績ファイル

検索で選択された属性ファイルの項目中の「ファイル名」から同名の実績ファイル呼び出します。

内容は、金利年率・金利変更・期限利益喪失・貸出実績・入金実績等の具体的実績内容です。

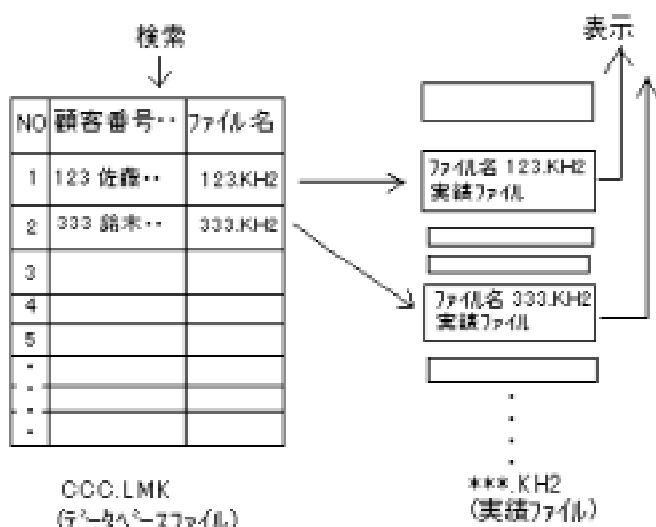
この実績ファイルは顧客数分無数に作られます。(最高 3000 件まで)

このファイルの内容変更は検索から呼出、あるいは展開計算から呼出の両方で呼出ができますので、呼出後に貸付分や入金の追加、あるいは属性などの変更をして「計算結果表示画面」で(上書き)保存します。

ファイルの拡張子は、****.KH2 です。

※ データベースファイル(属性ファイルと実績ファイル)は必ず、定期的あるいは更新時にバックアップをとっておいて下さい。万が一の場合修正が効きません。

● データベース構成図



■ ■ データベース検索項目

● 検索項目

検索項目入力では中途半端な文字や数字で検索すると、その文字や数字を含む該当を抽出しますので、簡単な入力での検索に活用できます。(元金残高以外)

検索項目に何も入れずに「検索」ボタンをクリックすると、データベースの全ての人の分が表示されます。

1. 顧客番号 使用者が付けた顧客番号です。採番する際は、任意で英数字などで特に桁数制限はありませんが、表示の幅の都合上、半角英数字の6桁くらいまでの番号としてください。
2. 氏名(フリガナ) フリガナで検索します。例えば「スズキ」で検索すると、スズキ姓の人が全て抽出されます。
3. 住所 例えば、「東京」で検索すると、「東京都～***」の住所の人が全て抽出されます。
4. 電話番号 例えば、「03」で検索すると、「03-1111-～」や「011-103-～」など、「03」の数字が含まれた全ての人が抽出されます。
5. 債権者 検索項目に入力された債権者に該当する人が抽出されます。債権者の名寄せ等に便利です。
この債権者の変更については、「データベース属性ファイル内容の訂正・削除」の画面ではできません。その実績ファイルを開いて訂正の上、実績ファイルの上書き保存にて訂正してください。
6. 元金残高 検索のリクエスト通りに、最終計算日時点での元金(元本)残高を各々計算の上、該当を抽出します。
この金額は範囲で指定できます。
例えば、(A)の□に-100000 以上、(B)の□に 200000 以下の範囲で抽出する場合、(A)に-100000 <= (B)に 200000 の形で入力検索します。
抽出結果がマイナスであれば、「過払い」ということになりますので計算上過払いの分だけを抽出することもできます。
過払い分の検索例は、(A)には何も入れず、(B)にゼロ(0)入力して検索します。(A)(B)共に何も入れず「検索」ボタンをクリックするとデータベースの全ての人の分が表示されます。また、表示された表の上の各項目のボタンをクリックすると、その項目をキーとして正逆交互に並べ替えができますので、いろいろ比較等ができます。
7. 提出日 裁判所等に提出した日付等に良ければと、この項目を設定しましたが使用者の判断で自由に使ってください。
例えば、年度では「2019」で、月度では「2019/05」等で検索できます。
8. ファイル名 個々の実績ファイルのファイル名です。このデータベース機能によらず、「計算登録」画面で、個々にこのファイル名で呼び出して開くこともできます。

■ データベース操作要領

データベースは顧客を検索して、該当顧客についての実績ファイルを呼出して、表示・印刷・加工をするものです。

■ 操作要領

● 検索

1. 検索・特定

タイトルメニューの「検索」ボタンで検索画面へ進み、顧客番号・氏名（カナ）などに検索項目を入力してエンターすると該当する顧客が「特定」の一覧表に表示されます。

検索では、例えば「佐藤**」という氏名の人を出したい場合、名前全部を入力できますが「サウ」とか「サ」など中途半端な入力でも、その文字を含む形で検索できます。数人の候補が表示されますので、選択してダブルクリックやエンターキーを押して特定すると、その実績が表示されます。



2. 実績ファイルの表示

金利年率・金利変更・期限の利益喪失・貸付実績・入金実績などが表示されます。

「展開計算」ボタンで次の展開計算画面へ進みます。

この時点で、金利変更や貸付実績・入金実績などの追加・削除などが自由にできます。ここでの保存はできません。（次の計算結果表示画面で保存します。）



3. 計算結果表示

前画面の内容で計算したものが表示されます。

ここで結果の印刷やその内容での保存ができます。



● 顧客属性登録と実績ファイル登録

入力の要領



1. タイトル画面のメニューバー「データベース」より

プルダウンメニュー「データベース属性ファイルの新規作成及び追加登録(手入力)」クリックで属性入力画面へ進みます。ここで、顧客番号・氏名・フリガナ・・・ファイル名を入力します。

必ず入力してエンターキーを押して初めて確定します。ファイル名は基本的には顧客番号がそのままファイル名となりますが、別のファイル名にすることもできます。

特に別のファイル名にすることができますが、全角モード（漢字等）でのファイル名はできません。

2. 「属性ファイル保存登録」ボタンで、この顧客の属性を登録します。これで属性ファイルが登録。

3. 「実績内容登録」ボタンで、実績内容を登録する画面へ進みます。

この画面は、「展開計算」の為の実績など（実績ファイルを登録）を入力する画面です。そのまま、内容の入力をして、「展開計算」ボタンで計算結果表示画面へ進みます。

ここで、「保存／登録」ボタンで保存します。

ここでは、コメントなども入力できます。注意事項などを入力しておくとも便利です。

●DB訂正・削除



○訂正できる内容

顧客番号、氏名、フリガナ、住所、電話番号、提出日
(ファイル名は実績ファイルとの関連で複雑になる可能性がある為、
訂正・変更できません。)

※ 債権者の変更訂正については、ここではできません。
その実績ファイルを開いて、訂正の上、実績ファイルを上書保存してください。

1. タイトル画面のメニューバー「データベース」より
プルダウンメニュー「データベース属性ファイル内容訂正・削除」クリックで
「属性ファイルの訂正・削除」画面で訂正・削除を行います。
検索と同じ要領で、変更したいレコードを特定します。
2. 変更したい箇所を変更書き換えします。
3. 「訂正済を保存・登録」ボタンで保存します。
「実績ファイル」内の属性部分も訂正するかどうか選択します。
「実績ファイル」での顧客番号・顧客氏名等は、「計算登録画面」「計算結果表示画面」
で変更・保存することもできます。
実績ファイルが存在しない場合、別メニューにて実績ファイルの作成や、
さらに別メニュー(データベース属性ファイルへの追加登録)等にて既に存在する実績ファイルを
呼び出して、この属性ファイルに結合することができます。

※ファイル名は半角で最高8文字以内となります。
必ず拡張子(.KH2)が付いていることを確認して下さい。
越えた場合は9文字以降はカットされて拡張子が付けられます。

4. 削除したいレコードもここで削除できます。
「実績ファイル」も削除する場合は、削除OKで削除されます。

~~~~~

## ※検索でのテクニック

### ○検索項目は中途半端な入力でも良い

例えば、目的の顧客番号が「12345678」だとすると、「12345678」と入力すると、基本的に  
目的のレコード1件が表示されますが、「123」とか「456」等の中途の文字を入れても  
検索できます。

項目入力した文字を含むレコード候補が表示されます。

「123」であれば、「12345678」とか「44123456」とか「123」を含む候補が表示されます  
ので、その中から選択することができます。他の項目も同様です。

○「特定」の一覧表では↑↓キーとエンターキーでも選択できます。  
マウスでダブルクリックして選択と同様の効果となります。

### ○ソート(並べ替え)ができます。

「特定」の一覧表の各フィールド項目のボタンを押すと、その項目でのソートが  
行われます。

昇順と降順と交互にソートされます。

最初の状態に戻すには、「NO」のボタンで戻ります。

## ■ ■ データベースファイルの編集

データベースファイル（＝検索用の属性ファイル）の編集を行います。

ここでは、データベースファイルの一括編集をする画面で、個々のレコード内容の編集はここではなく、「DB 訂正・削除」画面で行います。

また、「実績ファイル」の変更も、ここではなく計算登録画面と計算結果画面で行います。

画面は、タイトルメニュー画面の上部のメニューバーの「ファイル」－「データベースファイルの編集」で画面を出します。



### ● ファイルの指定

ファイル指定で、編集するデータベースファイル（LMK ファイル）を指定して、「データベース表示」ボタンで、「一覧表」にデータベースを表示します。

※編集する前に必ず別のフォルダ等にデータベースファイルのコピーをバックアップとして保存して下さい。

### ● データベースの書き換え

ソート（並べ替え）をした属性ファイルを元の属性ファイルに入れ替えして上書きします。

一覧表の各フィールド項目のボタンを押すと、それぞれの項目の内容で昇順・降順と交互にソートされます。

気に入ったソート内容の状態で、「並替した下記の一覧表をデータベースとする」ボタンをクリックすると、その一覧表の内容で元のファイルが書き換えされます。

元のファイルは「CCC\_M.LMK」という名前でバックアップ保存されます。

### ● データベースの合併

データベースのマージです。これは複数のパソコンにあるデータベースファイルを統合したい場合や、データを別々の担当で入力して、後でまとめるなどの場合に使います。

このソフトの所在するフォルダの下に「DTM」というフォルダが作られ、そこにデータベースファイルが積み重ねられます。

上記の「ファイルの指定」で指定したファイルが、「DTM」フォルダにある合併ファイルにマージされます。元のファイルはそのまま、コピーされてマージされる形です。

作り直しの場合は「合併ファイルの削除」ボタンで削除してやり直しができます。

### ● データベースの分割

データベースを2分割することができます。

レコード NO について、\*\*から\*\*まで、の形で抜き出し、2つのファイルに分割します。

この場合、元のファイルはそのまま、分割により「CC1.LMK」と「CC2.LMK」の2つのファイルができます。

必要に応じてこれらのファイルの名前を「CCC.LMK」に変更して使えば、検索として使用できるようになります。



## ■ ■ データベースへの追加

次の 2 種類の追加ケースを説明します。

### 1. 最初からの入力

最初から続けて一つのファイルをデータベースに追加します。

#### 1. タイトルメニューの「データベース」のプルダウンメニューより

「データベース属性の新規作成及び追加登録」を選びその画面へ

#### 2. 「属性入力」の各項目（顧客番号・氏名・フリガナ・住所・電話番号・提出日・ファイル名）を入力して「属性ファイル保存登録」ボタンで「属性ファイル」に登録して、「実績内容登録へ」ボタンで「計算登録」画面へ進みます。

#### 3. 「計算登録」画面で「基本項目」「貸付（借入）分」「返済分」などの実績内容を入力の上、計算登録結果表示画面へ進み、「保存／リセット」ボタンで登録します。

### 2. 既にある実績内容ファイルをデータベースに追加登録する

このデータベース版以前の「ローンマスター／金利引き直し計算」ソフトなどで、既の実績ファイルがある場合にこのデータベースソフトに追加します。

#### 1. タイトルメニューのプルダウンメニューの「データベース用実績ファイルへの変更」より

その画面で「読み込み」ボタンで既にある実績ファイルと呼出して確定や書換えします。

#### 2. 「変更登録保存」ボタンを押して実績ファイル内の属性部分を書換え登録します。

#### 3. 以上の処理の上でタイトルメニューの「データベース」のプルダウンメニューより

「データベース属性ファイルへの追加登録」を選び、その画面へ

#### 4. 「属性入力」項目に入力する為に、「読み込み」ボタンで既にある実績ファイルと呼び出し確定や書換えをして、データベースの属性ファイルを登録できるようにします。

#### 5. 「DB 追加登録」ボタンでデータベースに追加されます。

## ※ データベースへの追加の確認

「検索」画面より、検索・特定すると実績内容が表示され、そのまま「引き直し計算結果画面」まで進み、登録の確認ができます。

## ■ ■ 別の新しいデータベースの作成

既の実績ファイルがあって、それらについて全く新しく別のデータベースを別のフォルダに作ることができます。

### 1. 別の空のフォルダもしくは、新たに別の任意のフォルダを作ります。

### 2. そのフォルダに、既にできている各実績ファイルを移します。（コピー等で）

### 3. タイトルメニューの「ファイル」-「顧客ファイルの格納フォルダを指定」でその任意フォルダを指定します。

### 4. タイトルメニュー「データベース」プルダウンメニュー「データベース用実績ファイルへの変更」画面で、その各実績ファイルの属性部分をそれぞれ読み込み、書換えや入力して DB 用の実績ファイルに変更登録します。

### 5. 「計算登録」画面で、その実績ファイルと呼出し、展開計算まで進み、各属性が入力されているか確認し、さらに債権者名が入ってなければ債権者名を入力して上書き保存します。（以降（6. 以降↓）の処理はデータベースを作る最初の 1 回限りとなります。）

### 6. 「データベース属性ファイルの新規作成」画面で「読み込み（リッピング）」ボタンで属性登録全てが完了した実績ファイルを読み込みます。

### 7. 読込んだ属性内容が正しければ「属性ファイルリストに追加」ボタンでデータベースに追加します。

### 8. 「属性ファイル作成（CCCXXX.LMK）」ボタンでデータベースを作ります。（これ 1 回限りです）

### 9. 新しく正式にデータベースを作ります。「使用可能な属性ファイル名（CCC.LMK）に変更する」ボタンで CCCXXX.LMK のファイル名が CCC.LMK に変わり実際にデータベースとして使えるようになります。これで新しいデータベースができましたので、ここでの処理が最初で最後になります。これ以降の実績ファイルに追加は「データベース属性への追加登録」での処理となります。

## ■ ■ 操作要領

### ■全体操作概略

データの入力の全体操作概略

#### ●初期設定

タイトル画面の「設定」で行います。変更可能です。

各設定は起動後にも変更できます。

この初期設定を保存すると、以後、「スタンス」「年月日表示」「閏年対応」「貸付日算入」「利息制限法」「返済日変換」「金利計算」

「印刷時の左マージン」「結果表示の期間表示」「印刷での債務者表示」の10項目についてソフト起動時に自動初期設定されます。

また、顧客ファイルを格納するフォルダも指定保存します。

起動後のつどの一部設定変更は各画面でもできます。

タイトル登録：タイトル画面のイメージとテーマを登録できます。

#### ●顧客属性登録（属性ファイル登録）

タイトル画面の「顧客属性登録」ボタンより入力画面を呼び出します。

ここでは、データベースの索引部分となる「属性ファイル」を作成します。

「属性入力」＝検索用の属性です。

顧客番号、氏名、フリガナ、住所、電話番号、提出日、ファイル名を入力の上、属性ファイルに書き加えます。

続いて「実績内容登録」ボタンで個々の実績ファイルの作成へ進みます。

#### ●計算登録（実績ファイル登録）

ここでは、年率や各貸付・返済状況を入力して、引き直し展開計算まで進み、実績ファイルとして保存します。

##### 1. 基本項目入力

各設定画面で「年率」「期限の利益喪失日」「最終計算日」を入力します。

途中での金利変更があれば、金利変更を入力します。

（ここでファイル呼び出して、展開計算すると、計算結果表示へ進みます。）

##### 2. 貸付分入力

貸付日と金額を入力します。

貸付回数は最高500回分まで入力できます。

##### 3. 返済分入力

返済日と金額を入力します。

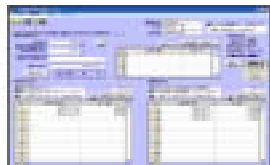
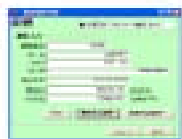
返済回数は最高500回分まで入力できます。

##### 4. 計算結果表示

計算結果の表示をします。ここで各設定をいろいろと変えて再計算ができます。

ここでファイルの保存（読込）ができます。

各画面から前の画面へ戻って訂正できます。



## ■ ■ 一般的操作要領

1. 基本的に、入力してエンターキーを押すと、確定して次の項目へ移動します。  
(タブキーでは確定しませんので注意)
2. 戻り訂正は、→←↑↓キー、もしくはマウスで該当項目をクリックします。
3. 各項目は基本的チェックがかかりますので安心して入力できます。
4. 日付入力では、西暦 8 ヶ、もしくは元号 (H もしくは R)+6 ヶで入力します。  
元号は 基本は「H」や「R」ですが、「h」「r」「k」「s」でも入力できます。  
例：2019 年 5 月 20 日では  
20190520 もしくは R010520 r010520 s010520  
いづれでも入力できます。  
初期設定で元号になっていれば、入力した年月日が 令和 01 年 05 月 20 日  
西暦になっていれば、入力した年月日が 2019/05/20 と表示されます。

### ○自動月末割出入力

年月日入力で、その月の月末の日付以上の日付を入れると、自動的に月末を判定して入力されます。

例えば、20190431 と入力すると、自動的に 2019/04/30 が入力されます。

### ○「翌月同日同額自動入力」での自動月末入力

返済入力において、月末で入力して、その翌月以降を 「+」 エンターで  
「翌月同日同額自動入力」すると、各月の月末を自動判定して入力されます。

## ■ ■ 初期設定

### 設定方法

タイトル画面のメニューの「設定」－「各設定」－「初期設定」で初期設定ができます。  
「計算結果表示」画面の上部のオプションボタンで、その場で切替再表示がされます。

### 設定方法

タイトル画面のメニューの「設定」－「各設定」－「初期設定」で初期設定ができます。  
「計算結果表示」画面の上部のオプションボタンで、その場で切替再表示がされます。

### 1. 年月日表示

入力した年月日の表示を設定します。

例： 元号～平成 31 年 01 月 20 日          西暦～ 2019/01/20

元号は 基本は「H」や「R」ですが、「h」「r」「k」「s」でも入力できます。

例： 2019 年 1 月 20 日では

20190120 もしくは H310120          h310120          k310120

いづれでも入力できます。

初期設定で元号になっていれば、入力した年月日が 平成 31 年 01 月 20 日

西暦になっていれば、入力した年月日が 2019/01/20 と表示されます。

### 2. 閏年対応

閏年での金利計算方式を設定します。

例： 閏年対応する

$123,456 \times 18\% \div 366 \times \text{日数}$

閏年対応せず一律 365 日で計算

3. 貸付日算入

貸付当日の金利を計算するか設定します。

なし＝貸付日は一切含まない

あり＝貸付日金利を計算する

4. 利息制限法に準じて金利計算するかどうか設定します。

利息制限法に合わせた場合は、

前元本残が 10 万円未満であれば 20%

100 万円未満であれば 18%

100 万円以上であれば 15% で自動計算します。

※利息制限法については、本来、貸付元本に対応する利率となっていますが、

カード・キャッシング・ローン等にも対応する為に、当ソフトでは前元本残に対しての利率設定としています。

この計算方法が適さない場合もありますので、ご確認の上、ご使用下さい。

5. 返済日

土・日・祝日等カレンダー参照して銀行営業日を割り出して自動変換します。

例えば：返済日に 19990710 と入力すると当日は土曜日なので月曜日である 7/12 を割り出し入力します。

「変換せず」を選択すると、入力したままの年月日で入力されます。

6. 金利計算の円未満処理

金利計算での小数点以下の端数処理を指定します。

貸付日算入分の金利や期間金利等を合算の上で最終的に円未満処理をします。

選択は「切り捨て」「四捨五入」

7. 結果出力

計算結果の表示及び印刷に金利の計算期間を表示するかどうかを指定します。

期間表示有りに指定すると、2002/01/20～2002/05/25 のように表示されます。

無しと指定すると、期間については日数のみの表示となります。

印刷においては、この期間表示は幅の関係上、横印刷のみに限られます。

8. スタンス

このソフトを使い、計算表を出す人は債権者なのか債務者なのかによって、貸付になるのか借入になるのかの表示が違ってきます。それを設定します。

「貸付」の場合債権者側として計算する場合に選択します。

計算表の表示が「貸付日・貸付金額」や「請求金額」となります。

「借入」の場合債務者として計算する場合に選択します。

計算表の表示が「借入日・借入金額」や「被請求金額」となります。

9. 印刷（左マージン）

印刷において、デフォルトでは、左マージンはゼロに設定されていますが、実際に印刷して調整します。マイナスの設定値でも可です。

10. 印刷での債務者表示

計算書の印刷に債務者の氏名を印刷するかどうかを指定します。

11. タイトル画面のイメージとテーマを登録できます。

何も登録しない場合は既定の「ローンマスター／金利引き直し計算DB」が表示されます。

注意：イメージファイルは必ずこのソフトの所在するフォルダに置いて下さい。

他のフォルダのイメージファイルでは受け付けません。

## ■ ■ 顧客属性登録

タイトルメニューのプルダウンメニューの「データベース用実績ファイルへの変更」よりその画面で「読み込み」ボタンで既にある実績ファイルを呼出して確定や書換えします。ここでは、データベースの索引部分となる「属性ファイル」を作ります。

「属性入力」＝検索用の属性です。

1. 顧客番号：半角で8桁以下となります。
2. 氏名：顧客氏名を全角で入力します。
3. フリガナ：氏名のフリガナを半角のカタカナで入力します。  
検索ではこのフリガナで検索します。
4. 住所：番地まで入力しても表示枠の関係で表示されないことがありますので、市町村程度までの入力とします。
5. 電話番号：03-0000-0000のようにハイフンをつけて入力します。
6. 提出日：裁判所などへの提出日などを入力します。  
入力は西暦8桁 20190925 もしくは元号6桁 R010925 で入力。
7. ファイル名：基本的には自動で前述の顧客番号がファイル名として振り付けられます。  
ここで任意に変更もできます。



以上で「変更登録保存」ボタンを押すと、属性ファイルに書き加えられます。  
続いて「属性ファイルへの追加登録」メニューにてデータベースへの追加登録がなされます。

## ■ ■ 計算登録

### ■ 基本項目入力

- 「既存属性＋既存実績ファイル」ボタン

「顧客属性登録」及び「DB訂正・削除」画面からこの画面にきた時にこのボタンが表示されます。

属性ファイルと既に存在する実績ファイルを結合させる為に、その実績ファイルを呼び出す為のボタンです。



1. 金利年率は当初の年率を入力します。
2. 期限の利益喪失後の遅延損害金の年率を入力します。  
無指定エンターでは、自動的に 29.2%が入力されます。
3. 期限の利益喪失日を入力します。(必須ではありません)  
入力せずにエンターでとばした場合は入力されません。  
期限利益喪失日を入力しない場合は、当然遅延損害金の年率での計算はされません。
4. 最終計算日は入力必須です。  
この日以降の貸付分や返済分があっても一切計算されません。
5. 金利変更は期限の利益喪失日がある場合は、それ以前での金利変更として、  
期限利益喪失後はすべて遅延損害金年率に統一されます。  
金利変更日：金利変更日から指定の年率での計算になりますので、  
その前日まで、それまでの年率で計算されて、金利変更日を含めて  
指定の年率での計算となります。  
計算上の日付としては、金利変更日の前日が表示され、  
それまで前の年率での計算となります。

金利変更なしの場合は、そのまま「貸付入力」ボタンで次の貸付入力欄へ進みます。  
金利変更ありの場合はオプションボタンで選択し、年月とその日から適用される  
年率を入力します。金利変更は最高 60 回分までできます。  
金利変更入力終了は、「\*」エンター、もしくは「金利変更入力終了」ボタンで  
次の「貸付入力」へ進みます。

6. 訂正等の為の移動は、↑↓キーもしくは、マウスでクリック。

#### ●自動月末割出入力

年月日入力で、その月の月末の日付以上の日付を入れると、自動的に月末を判定して  
入力されます。

例えば、20020431 と入力すると、自動的に 2002/04/30 が入力されます。

### ■貸付（借入）分入力

#### ●貸付数は最高 500 回分まで入力できます。

1. 入力してエンターで確定します。（タブキーでは確定しません）
2. 入力順は貸付日順でなくともかまいません。順不同で入力OK。
3. 貸付日入力は西暦の 8 桁、もしくは元号(H)+6 桁で入力します。  
元号は 基本は「H」や「R」ですが、「h」「r」「ク」「ス」でも入力できます。  
例： 2019 年 1 月 20 日では  
20190120 もしくは H310120 h310120 ク310120  
いづれでも入力できます。  
初期設定で元号になっていれば、入力した年月日が 平成 31 年 01 月 20 日  
西暦になっていれば、入力した年月日が 2019/01/20 と表示されます。

#### ●自動月末割出入力

年月日入力で、その月の月末の日付以上の日付を入れると、自動的に月末を判定して  
入力されます。

例えば、20190431 と入力すると、自動的に 2019/04/30 が入力されます。

4. 金額入力は円単位で入力エンターします。
5. 訂正は上書きエンター。
6. 行の削除はカーソルを該当セルへ持って行って「DEL」キー。
7. 入力終了は、貸付日入力欄に「\*」エンター  
もしくは、「貸付分入力終了」ボタンを押して、貸付分入力分を確定させて  
次の「返済分入力」へ進みます。
8. ファイル呼出後に追加入力もできます。
9. 貸付（借入）入力した分をクリップボードコピーして、表計算やワープロソフトなど  
に貼り付けできます。操作は「コピー」参照

## ■返済分入力

●返済数は最高500回分まで入力できます。

1. 入力してエンターで確定します。(タブキーでは確定しません)
2. 入力順は返済日順でなくともかまいません。順不同で入力OK。
3. 返済入力は西暦の8桁、もしくは元号(H)+6桁で入力します。  
元号は 基本は「H」や「R」ですが、「h」「r」「k」「s」でも入力できます。  
例： 2019年5月20日では  
20190520 もしくは R010520 r010520 s010520  
いづれでも入力できます。  
初期設定で元号になっていれば、入力した年月日が 令和01年05月20日  
西暦になっていれば、入力した年月日が 2019/05/20 と表示されます。

●自動月末割出入力

年月日入力で、その月の月末の日付以上の日付を入れると、自動的に月末を判定して入力されます。

例えば、20190431 と入力すると、自動的に 2019/04/30 が入力されます。

●「翌月同日同額自動入力」での自動月末入力

返済入力において、月末で入力して、その翌月以降を「+」エンターで「翌月同日同額自動入力」すると、各月の月末を自動判定して入力されます。

4. 金額入力は円単位で入力エンターします。
5. 訂正は上書きエンター。
6. 行の削除はカーソルを該当セルへ持って行って「DEL」キー。
7. 初期設定では、「返済日」は銀行営業日に設定されています。  
土・日・祝日等により銀行の営業日を自動割り出しして入力されます。  
「○そのまま入力」へマウスクリックチェックすると、入力した日付をそのまま入力できます。
8. 返済日入力で「+」を入力エンターすると、翌月同日の同金額が効率的に自動入力されます。
9. 入力終了は、返済日入力欄に「\*」エンターもしくは、「返済分入力終了」ボタンを押して、返済分入力分を確定させて「計算」ボタンを押して「計算結果」画に進みます。
10. ファイル呼出後に追加入力もできます。
11. 返済分入力した分をクリップボードコピーして、表計算やワープロソフトなどに貼り付けできます。  
操作は「コピー」参照

## ■ ■ 計算結果表示

1. 「ファイルを開く」  
「名前を付けて保存」  
「計算結果の印刷」  
「MD 電卓」  
「支払営業日割出」  
「ヘルプ」  
以上はアイコンクリックにて対応。
2. [日付表示] [閏年対応] [貸付日算入] [利息制限法]は、それぞれのクリックチェックにより、指定通り再計算をします。印刷も画面表示の形で印刷されます。  
但し、ここでの設定変更はこの場限りで初期設定変更とはなりません。
3. 計算表タイトルは、印刷時のタイトルです。  
自由にタイトルを書き込み指定できます。  
特に指定ない場合「貸付返済/元利計算表」となります。
4. ファイルパス名は、ファイルを読込や保存した場合に、そのパスが表示されます。
5. 印刷はA 4 サイズの横と縦のどちらかを選択できます。  
計算表の行数は、横が 30 行 縦が 48 行となります。  
また、プリンタのガイドにて縮小などができます。  
プリンタにより、印刷位置が違うことがありますので、  
初期設定の「左マージン」を設定して下さい。
6. 計算結果をクリップボードコピーして、表計算やワープロソフトなどに  
貼り付けできます。操作は「コピー」参照
7. コメント  
自由にコメントを入力できます。  
当ファイルや顧客についての注意事項などを入力保存します。

## ●計算内容

1. 貸付や返済分の入力は順不同でも、全て並替されて計算されます。
2. 「閏年対応」の場合、平年と閏年の間に 12 月 31 日が自動設定され、  
金利計算の区切りとなります。  
その場合の閏年の金利は前元本残×年率÷ 366 ×日数となります。
3. 貸付日算入ありにした場合は、金利計算においてそれぞれの貸付日も日数に含んで  
計算します。(両端計算)
4. 元金残高がマイナスになった場合（過払い）は金利・損害金は計算しません。
5. 期間表示はタイトルメニュー画面の設定にて、初期設定すると表示されます。



## ■ ■ 実績ファイルの変更

実績ファイルの変更は、金利変更や貸付・入金などを追加や変更する場合に行います。  
下記の3通りの方法のいずれかでを行います。

### 1. 検索から

実績ファイルの変更は、「検索」で変更したい実績ファイルと呼び出します。

「計算登録」画面で、金利変更や貸付・入金を加えたり変更します。

「計算登録」ボタンで一度展開計算をして、次の「計算結果表示」画面で、  
上書き保存（名前を付けて保存）をします。

### 2. 直接呼出して

タイトルメニュー画面の「計算登録」ボタンで「計算登録」画面へ進みます。

アイコンなどから目的の実績ファイルと呼出して、加工します。

「計算結果表示」画面まで行って、上書き保存（名前を付けて保存）します。

### 3. データベースの「訂正・削除」から

データベースの属性ファイルと呼出し、訂正した後にそのまま「実績ファイル」を  
呼出し、同様の方法で変更します。

## ■ ■ 日割り金利計算

一区間の金利計算をします。

日数計算、閏年計算も含み金利計算式まで表示します。



### ■ 入力

元金：円単位で入力します。

実質年率：年率で入力します。

起算日：金利計算期間の最初の日を入力します。

西暦8桁 20020920 あるいは 元号6桁 H140920 のように入力します。

計算日：金利計算期間の最後の日を入力します。

西暦8桁 20020920 あるいは 元号6桁 H140920 のように入力します。

### ● 閏年計算

「閏年」 閏年の日数分には分母を366日にして計算します。

「一律」 閏年などに関わらず分母を一律365日にて計算します。

### ● 片端計算（貸付日算入せず）

貸付日は含まないで計算します。

貸付日算入で計算したい場合は、貸付日の前日を起算日として入力・計算します。

## ■ ■ 融資リクエスト試算／回数指定

融資貸付で貸付元金総額や支払回数などが決まっている場合に、その回数の範囲内で月々支払額がいくらなら→ボーナス払分がいくら  
ボーナス払分がいくらなら→月々支払額はいくら  
というように、それぞれのリクエストに応じて目安額を算出します。  
その目安額でよければ、そのまま正式計算をします。  
計算は毎月分貸付元金とボーナス分貸付元金も割り出します。

### 機 能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- 毎月支払希望額を入力するとボーナス目安が出ます。
- ボーナス加算希望額を入力すると毎月分目安が出ます。
- ボーナス払
- ボーナスの間隔は夏冬で、自由に計算できます。
- 例えば、6月－12月 7月－12月 8月－12月 6月－1月などの間隔での計算が可能です。

○「確定」ボタンで概算が出て、そのまま「正式計算」ボタンで正式計算をします。

注意：ここでの計算は、月利計算のみですので、融資実行日や初回支払日を決めた上での日割り金利計算を含む計算までは行っておりません。  
実際の具体的計算の場合は「融資返済計算（詳細計算）」機能で計算して下さい。

- ボーナス回数は自動カウントします。
- 試算結果の印刷ができます。

元利均等払いと元金均等払いの2種類があります。

### 入力項目

- 金利年率 : 1 1 0 %以上の数字は入力不可
- 融資金額（総額）: 最高1億円まで
- 支払回数 : 最高1200回まで
- 初回支払年月 : 1950年～2099年
- ボーナス初回年月: 初回年月より前は不可
- ボーナス2回目月: 月だけ入力（年月ではない）

## ■ ■ 借入可能金額(元利均等払)割出し

融資での、毎回の返済希望額をリクエストして、その支払方法での最高いくらまで借りられるか借入元本額を割り出すものです。

実質年率計算での元利均等払方法で、毎回の返済希望額から逆算して、借り入れする毎月分とボーナス分の借入元本をそれぞれ算出します。

### 機能

1. 既定の支払回数の他に回数を自由設定できます。
2. 初回年月とボーナス月を指定して、含まれる最大のボーナス回数を自動で割出して計算します。
3. 割り出す元本は円単位から1万円単位まで指定できます。
4. ファイル保存して、呼び出してそのまま加工もできます。
5. 一覧表が印刷できます。

### 入力項目

1. 実質年率  
最高は109.2%まで
2. 初回年月  
第一回支払の年月を入力します。  
入力方法は、西暦6桁もしくは元号4桁で入力します。  
例： 200303 H1503 等
3. ボーナス初回年月  
第一回のボーナス月を入力します。  
ボーナスの有無にかかわらず必須入力です。  
入力方法は、西暦6桁もしくは元号4桁で入力します。  
例： 200307 H1507 等
4. ボーナス2回目 月  
2回目のボーナスの「月」だけを入力します。(年月ではありません。月だけです)  
例：7 12
5. 毎月支払希望額  
毎月の支払額を円単位で入力します。  
「金利込みで毎月いくら」の形で入力します。
6. ボーナス加算希望額  
ボーナス月にボーナス分として、金利込みでいくら払いたいかを入力します。  
ゼロを入力すると、ボーナスなしの均等払の扱いになります。
7. 支払回数  
既定の支払回数が表示されていますが、自由に回数を入力することができます。  
回数を入力してエンターキーを押して確定して計算されます。
8. 支払回数の設定  
現在表示されている回数をそのまま次回起動時にも自動設定することができます。

## 設定方法

メニューバーの「設定」－「現在表示の支払回数で設定」をクリックするとそのまま設定されて、次回起動時もこの回数となります。

## 9. 元金単位の設定

元金を算出する際に、1 円、100 円、1000 円、1 万円単位にそれぞれ設定することができます。

## 設定方法

メニューバーの「設定」－「元金単位」で、それぞれの単位項目をチェックすると、そのまま設定されます。

次回起動時もこの設定となります。

## 10. ファイル

入力計算した内容をファイル保存、呼び出しができます。

メニューバーの「ファイル」から「ファイルを開く」「名前を付けて保存」でファイル操作します。

呼び出したファイルをそのまま加工して、再度ファイル保存もできます。

拡張子は「\*.KK1」です。

## 11. 印刷

入力計算、あるいはファイル呼び出しした内容を一覧表にて印刷できます。紙のサイズは「A4」サイズとなります。

## 12. コピー

コピーボタンもしくは、表を右ボタンすると「コピー」が出ますので、一覧表の内容をクリップボードコピーできて、Excel などの他のソフトにも貼付できます。

| 元金元金元金 | 元金元金元金    | 元金元金元金 | 元金元金元金    | 元金元金元金    |
|--------|-----------|--------|-----------|-----------|
| 1      | 100000000 | 1      | 100000000 | 100000000 |
| 2      | 100000000 | 2      | 100000000 | 100000000 |
| 3      | 100000000 | 3      | 100000000 | 100000000 |
| 4      | 100000000 | 4      | 100000000 | 100000000 |
| 5      | 100000000 | 5      | 100000000 | 100000000 |
| 6      | 100000000 | 6      | 100000000 | 100000000 |
| 7      | 100000000 | 7      | 100000000 | 100000000 |
| 8      | 100000000 | 8      | 100000000 | 100000000 |
| 9      | 100000000 | 9      | 100000000 | 100000000 |
| 10     | 100000000 | 10     | 100000000 | 100000000 |
| 11     | 100000000 | 11     | 100000000 | 100000000 |
| 12     | 100000000 | 12     | 100000000 | 100000000 |
| 13     | 100000000 | 13     | 100000000 | 100000000 |
| 14     | 100000000 | 14     | 100000000 | 100000000 |
| 15     | 100000000 | 15     | 100000000 | 100000000 |
| 16     | 100000000 | 16     | 100000000 | 100000000 |
| 17     | 100000000 | 17     | 100000000 | 100000000 |
| 18     | 100000000 | 18     | 100000000 | 100000000 |
| 19     | 100000000 | 19     | 100000000 | 100000000 |
| 20     | 100000000 | 20     | 100000000 | 100000000 |

## ■ ■ 融資返済計算

ここでの計算表示はシミュレーションだけではなく、ユーザーの計算方針と一致すれば、実用の融資計算として対応できるものです。

貸付金額や支払回数等が決まっていたら、この機能で計算します。

元利均等払と元金均等払の2種類があります。

計算方法の詳細は下記を参照して下さい。

### 特長

1. 融資実行日から返済日までの初回日割り計算も詳細に計算されます。
2. ボーナス払は6ヶ月間に限らず、夏冬の自由なボーナス月での組み合わせで計算できます。
3. 都度の試算が一枚の紙に数通り印刷できます。
4. ボーナスオンリーでの計算もできます。(年賦・半年賦)
5. 詳細な元利展開表が表示され、印刷されたものは償還表としても活用できます。
6. ファイル保存できますので、後で呼び出して再加工もできます。

### 入力項目

- |          |   |                                                               |
|----------|---|---------------------------------------------------------------|
| 実質年率     | : | 110%以上の数字は入力不可                                                |
| 毎月払元金    | : | 最高5億円まで                                                       |
| ボーナス払分元金 | : | 最高5億円まで                                                       |
| 支払回数     | : | 最高1200回まで                                                     |
| 融資実行年月日  | : | 対象年：1950年～2099年                                               |
| 初回支払年月日  | : | 8桁年月日、例えば、20030120と入力<br>ここでの日が以降の支払日とします。<br>対象年：1950年～2099年 |
| ボーナス回数   | : | 支払回数÷6+1まで                                                    |
| ボーナス初回年月 | : | 初回年月より前は不可                                                    |
| ボーナス2回目月 | : | 月だけ入力(年月ではない)                                                 |

### 操作要領

1. 各項目へ入力しエンターキーを押すと、確定して次の項目へ進みます。
2. 各項目を入力終了したら、「計算」ボタンで計算され、結果表示されます。
3. 「印刷貼付指示」ボタンで今試算した内容を印刷用意させます。  
(ここではまだ印刷はされません)  
次の別のパターンの試算内容で再び、「印刷貼付指示」ボタンで印刷指示します。  
ここで「印刷出力指示」ボタンで初めて、今まで印刷指示した試算内容が一枚の紙に印刷されます。
4. 「元利展開表」ボタンで、展開表に画面が変わります。  
ここでの印刷は元利展開一覧表が印刷されますので、これがそのまま償還表としても活用できます。  
「コピー」ボタンは一覧表をクリップボードコピーできますので、そのまま他のEXCELなどの表計算ソフトなどに貼付することができます。
5. ファイルを保存できます。

- 拡張子は
- \* LM1～元利均等払
  - \* LM2～元金均等払

The screenshot displays a software window titled '融資返済計算 (元金均等返済方式)'. It contains several input fields and calculated values. On the left, there are fields for '返済回数' (Repayment count) set to 1200, '毎月払元金' (Monthly payment) set to 1,000,000, and 'ボーナス払分元金' (Bonus payment amount) set to 2,000,000. Below these are fields for '返済開始年月日' (Repayment start date) set to 20030120, '返済終了年月日' (Repayment end date) set to 20030420, and 'ボーナス回数' (Bonus count) set to 1. On the right, calculated values are shown: '返済元金総額' (Total repayment principal) 21,309, '返済元金総額' (Total repayment principal) 20,800, '返済元金総額' (Total repayment principal) 20,317, '返済元金総額' (Total repayment principal) 20,000, '返済元金総額' (Total repayment principal) 19,683, '返済元金総額' (Total repayment principal) 19,367, '返済元金総額' (Total repayment principal) 19,050, '返済元金総額' (Total repayment principal) 18,733, '返済元金総額' (Total repayment principal) 18,417, '返済元金総額' (Total repayment principal) 18,100, '返済元金総額' (Total repayment principal) 17,783, '返済元金総額' (Total repayment principal) 17,467, '返済元金総額' (Total repayment principal) 17,150, '返済元金総額' (Total repayment principal) 16,833, '返済元金総額' (Total repayment principal) 16,517, '返済元金総額' (Total repayment principal) 16,200, '返済元金総額' (Total repayment principal) 15,883, '返済元金総額' (Total repayment principal) 15,567, '返済元金総額' (Total repayment principal) 15,250, '返済元金総額' (Total repayment principal) 14,933, '返済元金総額' (Total repayment principal) 14,617, '返済元金総額' (Total repayment principal) 14,300, '返済元金総額' (Total repayment principal) 13,983, '返済元金総額' (Total repayment principal) 13,667, '返済元金総額' (Total repayment principal) 13,350, '返済元金総額' (Total repayment principal) 13,033, '返済元金総額' (Total repayment principal) 12,717, '返済元金総額' (Total repayment principal) 12,400, '返済元金総額' (Total repayment principal) 12,083, '返済元金総額' (Total repayment principal) 11,767, '返済元金総額' (Total repayment principal) 11,450, '返済元金総額' (Total repayment principal) 11,133, '返済元金総額' (Total repayment principal) 10,817, '返済元金総額' (Total repayment principal) 10,500, '返済元金総額' (Total repayment principal) 10,183, '返済元金総額' (Total repayment principal) 9,867, '返済元金総額' (Total repayment principal) 9,550, '返済元金総額' (Total repayment principal) 9,233, '返済元金総額' (Total repayment principal) 8,917, '返済元金総額' (Total repayment principal) 8,600, '返済元金総額' (Total repayment principal) 8,283, '返済元金総額' (Total repayment principal) 7,967, '返済元金総額' (Total repayment principal) 7,650, '返済元金総額' (Total repayment principal) 7,333, '返済元金総額' (Total repayment principal) 7,017, '返済元金総額' (Total repayment principal) 6,700, '返済元金総額' (Total repayment principal) 6,383, '返済元金総額' (Total repayment principal) 6,067, '返済元金総額' (Total repayment principal) 5,750, '返済元金総額' (Total repayment principal) 5,433, '返済元金総額' (Total repayment principal) 5,117, '返済元金総額' (Total repayment principal) 4,800, '返済元金総額' (Total repayment principal) 4,483, '返済元金総額' (Total repayment principal) 4,167, '返済元金総額' (Total repayment principal) 3,850, '返済元金総額' (Total repayment principal) 3,533, '返済元金総額' (Total repayment principal) 3,217, '返済元金総額' (Total repayment principal) 2,900, '返済元金総額' (Total repayment principal) 2,583, '返済元金総額' (Total repayment principal) 2,267, '返済元金総額' (Total repayment principal) 1,950, '返済元金総額' (Total repayment principal) 1,633, '返済元金総額' (Total repayment principal) 1,317, '返済元金総額' (Total repayment principal) 1,000, '返済元金総額' (Total repayment principal) 683, '返済元金総額' (Total repayment principal) 367, '返済元金総額' (Total repayment principal) 50, '返済元金総額' (Total repayment principal) 0. At the bottom, there are buttons for '計算' (Calculate), '印刷' (Print), '終了' (End), and '元金均等返済' (Principal equal repayment).



5/28-----7/27 7/28-----12/27 12/28-----7/27・・・  
 | -- 2ヶ月間 -- | ----- 5ヶ月間 ----- | ----- 7ヶ月間 ----- | .....  
 以上の関係で計算されたものが、ボーナス払額 53,616 円となりますので、  
 $500,000 \times 3\% \div 365 \times 8 = 328$  円・・・これをボーナス初回に加算しますと  
 $328 + 53,616 = 53,944$  円～これがボーナス初回の返済額となります。

元金均等払とは、毎回の返済額の内、元金部分が一定額で、金利部分は前月元金残高に  
対しての金利として、毎回変化していく為、毎回の返済額は変化していく返済方法。  
基本的には、元金均等払の概算計算と毎回の返済額は同じで、毎回の金利は月利で  
計算していきますが、初回の金利については、その融資実行日から初回支払日までの  
日割り計算により計算しています。

- 23 -





## ■ ■ ファイルの読み込み・保存

1. ファイルはテキスト形式で、拡張子は 「\*.KH2」 です。

前バージョンでのファイルは「\*.KHN」ですが、読込のみ可能です。  
読み込んで、「\*.KH2」で保存し直してください。

2. 読込は「入力」画面と「計算結果表示」画面でできます。  
「入力」画面で読み込み、展開計算で「計算結果表示」画面へ進みます。  
そこから前画面（入力画面）へまた戻って訂正入力ができます。
3. 保存は「計算結果表示」画面でのみできます。  
他の画面では保存はできません。

## ■ ■ 付属ソフト

### ■ MD 電卓

この電卓は、普通の電卓を独立したソフトとして付属させたものですので、MD 電卓のみをショートカット作成してデスクトップなどに貼り付けることもできます。

#### ● MD 電卓

普通の電卓です。

数字キーからの入力もできます。

上部のボタンから次の「日数計算」と「関数・数式電卓」を呼出できます。

#### ● 日数計算

起算日と計算日の入力で日数を計算します。

元号表示・十二支・曜日・満年齢なども計算表示されます。

また、「この日から何日後は何年何月何日か」を計算する経過日数計算もできます。

入力は西暦・元号（H・R）のどちらでも可能です。

#### ● 関数・数式計算

関数電卓として使用できます。

数式電卓として、あるいは変数入力計算もできます。

例えば、 $A = 56 \times 5 / (D + 8^{(-2)})$        $D = 123 / \text{Sqr}(8)$

などという複雑な変数での計算式で入力・計算を行います。

関数や演算子記号と変数を混合して使用できます。

変数はA～Zまで使用でき、変数の中にさらに変数を設定できます。

さらに、変数や計算式を保存・読込もできるものです。



## ■支払営業日割出し

金融機関などの実質の支払日を割り出します。  
土・日・祝祭日などの後にずれ込むものとして計算します。

ローンやクレジット等での毎月の支払日は決まっていますが、実際の支払日は、土曜・日曜・祝日などにより、その後にずれ込む場合があります。  
つまり、ローン会社や金融機関の営業日に支払うことになる為、実際の支払日はカレンダーを見ながら確認するものです。  
しかしながら、支払当時のカレンダーを見ながら支払日を特定するのも大変な作業となります。

例えば、銀行へ毎月3日に支払う契約として、

2000年5月分で見ると、

2000年5月3日は祝日

5月4日は祝日

5月5日は祝日

5月6日は土曜日

5月7日は日曜日

5月8日＝営業日

以上で5月3日分は実際には5月8日に支払うことになります。

このソフトは、カレンダーを見ずしてその支払営業日を一発で割り出します。

## ●特長

- 1.西暦・元号の両方で入力と表示ができます。
- 2.支払営業日から除外する休日である 土・日・祝祭日正月（1/1～1/3）のそれぞれの休日にリクエスト対応できます。
- 3.年月日入力後、▼▲ボタンで翌月同日・前月同日での入力計算がワンタッチでできます。
- 4.月末で入力して▼▲ボタンで毎月月末での入力計算ができます。
- 5.支払日がずれ込む場合、その理由（土・日・祝日など）が表示されます。

## ※注意

このソフトは2002年現在での設定です。



## ■■ インストール要領

インストールは次の2通りのいずれかの方法で行います。

### ● フルパック版でのインストール

ランタイム付き版です。

最初のインストールでは、この版でインストールします。

ランタイム付きですので非常にサイズは大きくなっています。

インストール方法

エクスプローラなどでインストール作業を行います。

1. ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに置いて解凍します。
2. 解凍展開されたファイルの内、「Setup」のファイルをダブルクリックするとインストールが始まります。

画面の指示通り進めます。

### ※再度フルパック版でインストールする場合

最初ではなく、2回目以降も同じくこのフルパック版でインストールする場合は、

前のバージョン分をコントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で

一度このソフト全部を削除してから改めて、新バージョンでインストールして下さい。

そのままインストールしてもソフト本体が新バージョンに書き変わらない場合があります。

### ● ランタイム無し版でのインストール

ランタイム無しで、ソフト本体とヘルプファイルと付属の電卓ソフト本体のみのパックです。本体だけですのでパックのサイズは小さくて済みます。

2回目以降は、このランタイム無し版で、ソフトのみの差し替えでインストールします。

インストール方法

エクスプローラなどでインストール作業を行います。

1. ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに置いて解凍します。
2. 解凍展開されたファイルの全てを前のバージョンのソフトと差し替え（上書き）します。  
ソフト所在のフォルダは通常下記フォルダになります。

ルートディレクトリ:¥Program Files¥ローンマスター／金利引き直し計算DB¥

## ■ ■ インストールのエラー

### ■ インストールでエラーが出る場合の処置方法

- 「フルパック版」をセットアップするときに 「Path or File not Found」 とエラー表示されてインストールできない。

Windows XP 等で、管理者ユーザー I D に漢字などの全角文字が含まれている場合にエラーになることがあります。

「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」で確認して下さい。

#### 対処法

「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」で、ユーザー I D をもう一つ、半角の英数字で作ります。

一度パソコンを終了して、再度立ち上げ時に新しく作った半角英数字のユーザー I D でログインします。

他の常駐などの裏で動いているアプリケーションは全て終了して、その状態でセットアップを開始します。

その後は新しいユーザー I D は削除をしても良いでしょう。

- 前バージョンから新バージョンへインストール差し替えができない

既に同じソフトの前バージョンなどがインストールされていて、そのままインストールした場合に起きることがあります。

#### 対処法

今入っている前バージョンのソフトを一度

「コントロールパネル」－「アプリケーションの追加と削除」で、削除して下さい。

その後に改めてフルパック版をインストールします。

## ■■ サポート

下記メール及びURLにてサポートします。  
但し、サポートは作者に可能な範囲でのサポートとなります。  
対応できない場合もありますので、ご了承下さい。  
また、下記注意事項にある見解の相違による計算方法の違いに対するサポートは原則的にできません。

サポートURL：ローンマスター <http://hp.vector.co.jp/authors/VA013299/index.htm>

メールアドレス：monsh@msi.biglobe.ne.jp

## ■■ 注意事項

### ■データベースのバックアップ

データベースファイルは、必ずバックアップをとって、別のフォルダやディスクなどに保管して下さい。  
万一ファイルが破損した場合、最初からデータを作り直さなければなりませんので、それを避ける為にも必ずバックアップを定期的、あるいは更新時に行なって下さい。  
データベースは「属性ファイル（検索用）」と、各顧客の「実績ファイル」です。

### ■計算内容等について

当ソフトでの計算や表示形式は、地域や会社等により適さない場合があります。  
例えば、貸付日算入の場合の期間日数表示方法や過払い時の計算、あるいは、期間末日が休日の場合の日数と日付の表示等その他にも、その見解や環境により、さまざまな形態が考えられます。また、特に利息制限法については、本来、貸付元本に対応する利率となっていますが、カード・キャッシング・ローン等追加貸付にも対応する為に、当ソフトでは前元本残に対しての利率設定としています。  
また、融資返済計算においても一般的な計算方法として設定されております。  
以上の例を含み、このソフトの計算方法が適さない場合がありますので、ご確認の上、ご使用下さい。  
当ソフトをご購入の際は、よく計算内容を吟味確認し、ご納得承認の上でご購入下さい。

### ■ソフトに関する責任

当ソフトに関して生じた問題について、作者は一切責任を負いません。

以 上